

1 研究テーマ

4 技能「聞く・話す・読む・書く」を関連付けた中学校英語科学習指導の工夫
「書くこと」の指導の充実を通して

2 テーマ設定の理由

現代の生徒たちは日常的に英語に触れる時代に生きている。例えば、新聞やテレビ、インターネットなどを通して、あるいは小学校での英語活動を通して英語と接する機会が増えてきている。しかし、実際に英語を使って相手とコミュニケーションを図るとなると、苦手意識がはたらく生徒が多いようである。

平成 19・20 年度佐賀県小・中学校学習状況調査において、中学校英語科では全体的には県が示した「おおむね達成」の到達基準に達していた。しかし、領域別に見ると、「書くこと」に課題があることが指摘されている。また、同調査による生徒意識調査では、学年が上がるにつれて、「授業が分かる」「授業が楽しい」と回答した生徒の割合が低くなる傾向にある。その原因の一つとして、学習する単語数の増加や文法などの難易度が上がることに十分な対応ができていないことが考えられる。これが英語を使うことへの苦手意識の一因になっているのではないかと推測される。

平成 20 年 3 月に示された新学習指導要領では、小学校に英語活動が導入され、特に音声面を中心として英語を用いたコミュニケーション能力の素地を育成することが期待されている。これを受けて中学校においては、現行の学習指導要領で重視されている「聞くこと」「話すこと」に、新たに「読むこと」「書くこと」が加えられた。このことは、小学校の英語活動ではぐくまれた素地の上に、4 技能をバランスよく指導してコミュニケーション能力を育成することが、今まで以上に重要になったことを意味する。

このように、「書くこと」の指導の充実を図ることは、4 技能のバランスの取れた指導を図る上で重要な課題であり、小学校英語活動が導入されたことを踏まえたこれからの指導を考える上でも、大切なことである。その上で、4 技能「聞く・話す・読む・書く」を関連付けながら、総合的にそれらの育成を図ることによって、コミュニケーション能力の基礎が養われると考える。

そこで本研究の第 1 年次では、「書くこと」の習慣化を図り、「書くこと」から「読むこと」「話すこと」「聞くこと」という順序性をもった関連付けの方法についての工夫を行い、授業実践を行った。成果としては、「ライティングノート」を活用した書く活動を取り入れたことで「書くこと」に対する苦手意識が低くなったことや、生徒が書く英作文の分量が多くなってきたことが挙げられる。

本研究の第 2 年次では、生徒が書く英作文の量的な評価に加え、質的な評価ができるような手立てを考えていくこととする。具体的には、英文特有の論理的な内容構成の仕方などを学習できるように、生徒が英作文を書く際の参考となるような手引き「英作文のコツ(仮称)」を作成する。それにより、これまでのまとまりのある分量や文法の正確さに加え、内容の一貫性や、論理的な文章構成も指導することが可能になり、「書くこと」の指導の充実が図られると考える。また、コミュニケーション能力を「相手の意向を理解し、自分の考えを伝える能力」と定義し、コミュニケーション能力の育成を図るために、4 技能を関連付ける方法についての研究をする。具体的には、「書くこと」から「読むこと」「話すこと」「聞くこと」という順序性に限らない様々な関連付けの方法を考案し、それらを生かした言語活動や授業展開の有効性について、検証授業を通して明らかにする。

以上のことを通して、「書くこと」の充実を通して、4 技能「聞く・話す・読む・書く」を関連付けた中学校英語科の効果的な学習指導について提案していきたいと考えている。

3 研究の目標

中学校英語科において、相手の意向を理解し、自分の考えを伝える能力をはぐくむために、書く力を付けるための指導法を研究するとともに、4技能「聞く・話す・読む・書く」の関連付けの方法について研究を進め、その成果を踏まえた言語活動や授業展開について明らかにする。

4 研究の仮説

中学校英語科の授業において、書く活動を授業の中に位置付け、「書くこと」を通して4技能「聞く・話す・読む・書く」を関連付けた言語活動を行えば、相手の意向を理解し、自分の考えを伝える能力をはぐくむことができるであろう。

5 研究の方法と内容

(1) 研究の内容

- ア 「書くこと」の指導についての理論研究に基づいた手引きの作成
- イ 4技能を関連付ける方法についての理論研究とそれに基づいた言語活動や授業展開の構想
- ウ 研究の有効性の検証及び研究のまとめ

(2) 研究の方法

- ア 参考文献などを通して「書くこと」の指導についての理論研究を行い、英文特有の論理的な内容構成の仕方などを学習できるような英作文の指導に役立つ手引きとしてまとめる。
- イ 1年次の研究を踏まえ、4技能の関連付けの方法を考案し、それに基づいた言語活動や授業展開を構想する。
- ウ 上記アの手引き及びイの言語活動や授業展開を位置付けた授業実践を行い、その有効性について検証し、研究をまとめる。

6 研究情報の発信について

本研究に関する研究委員会の基本的な考えを紹介するとともに、作成した手引き「英作文のコツ(仮称)」を掲載する。また、検証授業における学習指導案、ワークシート、教材などを資料として紹介する。

7 研究推進計画

月	平成 20 年度 2 か年計画 第 1 年次		平成 21 年度 2 か年計画 第 2 年次	
	研 究 行 程	研究委員会の開催等	研 究 行 程	研究委員会の開催等
4	研究要項作成		研究要項の見直し	
5	研究要項修正, 先行文献等の資料収集	研究要項審議会	研究要項の修正	研究要項審議会
6	理論研究と分析 具体的な方策の検討	第 1 回研究委員会	2 年次研究の具体的な方策の検討 手引き「英作文のコツ」の検討	第 1 回研究委員会
7	指導計画の作成, 検討	第 2 回研究委員会	手引き「英作文のコツ」の作成	第 2 回研究委員会
8	指導案等の作成, 検討	第 3 回研究委員会	指導案等の作成, 検討	第 3 回研究委員会
9	中間報告会の資料作成	第 4 回研究委員会	中間報告会の資料作成	
10	検証授業の実施, 検討会	第 5 回研究委員会 中間報告会	検証授業の実施, 検討会	第 4 回研究委員会 中間報告会
11	検証授業の実施, 検討会		検証授業の実施, 検討会	第 5 回研究委員会
12	1 年次のまとめ, Web 原稿作成	第 6 回研究委員会	研究のまとめ, Web 原稿作成	第 6 回研究委員会
1	Web 原稿検討, 提出	Web 原稿検討会	Web 原稿検討, 提出	Web 原稿検討会
2	Web 原稿の修正		Web 原稿の修正	
3	Web 発信		Web 発信	

《参考資料》

- ・ 佐賀県教育委員会 「平成 19 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 報告書」2008 年 3 月
- ・ 佐賀県教育委員会 「平成 20 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 報告書」2009 年 3 月